



国立公園満喫プロジェクト 2026年以降の取組方針（素案） 概要

2025年10月15日（水）
環境省自然環境局国立公園課

① 基本的な方針

背景

- 2024年にはコロナ前までの利用者数に復活したものの、「世界水準」のブランド化や滞在体験の魅力向上等について十分に取組が進んだとは言えず、自治体を含めた推進体制も課題。
- また、ライフスタイルの変化やサステナビリティ向上への意識の高まり、アドベンチャートラベルの機運向上などの観点から、国立公園への期待が一層高まっているとともに、一部のエリアにおける利用集中によるマナー違反や混雑等の悪影響、担い手不足などの課題も顕在化。

基本的な方針

1

国立公園ならではの
魅力的な滞在体験の提供

- 先行的に取組を行う重点地域を選定し、関連予算や民間提案を踏まえた制度の柔軟な運用により、民間投資を促進し、魅力的な滞在環境の実現を図る。
- 利用集中への対応、満足度が低い事項の改善等について地域関係者とも連携して取組を進める。
- 地域が主体となった取組を活性化させるため、民間の実施主体・関係地方公共団体への協力・支援を実施。

2

地域・利用者双方にとっての
国立公園のブランド力の向上及び
国内外へのプロモーションの強化

- 国内外からデスティネーションとして選ばれるため、日本の国立公園のブランド力向上を図る。
- 多様な主体と連携・協力・役割分担の上、戦略的かつ効果的にプロモーションを行う。

3

国立公園の保護と利用の
好循環の実現による
地域への貢献

- 国立公園の保護に資する利用を促進するとともに、自然資源劣化への対策や環境負荷低減を図る。
- 利用拠点・施設、活動による環境負荷の低減を図り、地域の持続可能性を高める。
- 国立公園内の長期滞在を促し、地域資源に対する支出を増やすことで、地域内経済循環に貢献。

国立公園制度創設100周年を迎える2031年に向け、日本の国立公園を地域の誇りとするとともに、世界水準のデスティネーションとなることを目指す。

(概要) 国立公園満喫プロジェクトの2026年以降の取組方針

② 具体的なアクション

具体的なアクション

1 国立公園ならではの魅力的な滞在体験の提供

先端モデル事業の実施・ 全国への展開	<ul style="list-style-type: none"> 地域の主体性を発揮させ、利用拠点の魅力向上と自然体験の充実を図り、滞在型・高付加価値観光を推進 先端モデル事業実施対象公園を中心に重点的に取組を推進し、2031年に向けて全国展開を進める 民間投資の更なる促進に向け、関連制度の活用や民間提案を踏まえた制度運用・計画の見直しを検討
感動体験の創出	<ul style="list-style-type: none"> 国立公園の魅力的な自然環境を基盤とした感動や学びを提供するため、自然体験アクティビティやツアー（アドベンチャートラベル等）の開発、地域のルール作り等に対する支援を実施
利用者受入れのための 基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> 混雑・マナー違反への対応や案内機能の強化、ビジターセンターの魅力向上、地域交通改善、担い手確保等の課題に対して、地域協議会等の枠組みを活用し、関係機関・団体と連携して改善を推進
民間主体・地方自治体への支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域の主体性を発揮するため、民間の取組主体や地方公共団体との連携・支援を強化

2 日本の国立公園のブランド力強化と国内外へのプロモーションの強化

インナーブランディングの強化	<ul style="list-style-type: none"> インタープリテーション計画の策定等を通じたインナーブランディングの強化
プロモーションの強化	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的なターゲット設定を行い、関係機関と連携の上、効果的かつ効率的なプロモーションを実施 国立公園オフィシャルパートナー等、多様な主体との連携も強化

3 国立公園の保護と利用の好循環の実現による地域への貢献

自然資源の維持・向上に 向けた取組の促進	<ul style="list-style-type: none"> 利用者負担の仕組みづくりを通じて、保護への再投資を実現 自然資源の劣化に対し、利用集中や気候変動等の影響を踏まえた防止策・改善策を講じる
環境負荷低下に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ・脱炭素、脱プラスチック、地産地消等の取組を推進し、環境配慮型の受入環境整備を促進
地域資源との連携	<ul style="list-style-type: none"> 文化財や地場産品などの地域資源と連携した包括的なプログラムの造成等、地域全体の魅力向上を推進

推進の枠組み

- 全ての国立公園で統一した意識のもと、本省において進捗把握を行いながら、プロジェクトを推進
- 有識者会議による助言体制を整備し、全国と地域の連携を強化
- 地域協議会等を協創の場として機能強化し、多様な主体による合意形成を促進
- 地域コーディネーターの育成や、**地域主体の事業への重点支援**を検討
- 法制度と補助制度の連携を強化し、一貫した環境整備・利用促進を推進
- 国立公園・ロングトレイルについても、ポテンシャルや受入体制を踏まえ、**基盤整備や情報発信を支援**

目標・指標

アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な方針に掲げる各項目の達成に向け、アウトカム指標として「量」と「質」の双方の指標を設定 ● 目標の達成状況や、今後策定予定の政府全体目標等を踏まえ、必要に応じて見直しを検討する。
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国の国立公園における活動状況を把握するため、アウトプット指標を設定 ● 活動内容の見直しや充実化を図る中で、必要に応じて各種指標の見直しを検討する。
地域別の目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組を行う国立公園・地域ごとに個別の目標・指標を設定 (国立公園ごとのアクセス条件、利用施設、自然等のキャパシティ、利用のビジョン等を考慮した目標・指標)

アウトカム指標（例）	
量	国立公園利用者数（1～12月）
	国立公園内宿泊者数（1～12月）
質	満足度調査におけるトータルネガティブの割合
	友人・知人への推奨意向における推奨者の割合
	国立公園の来訪前認知の割合
	1人あたり消費額（支出額）
	保護への再投資額
	平均泊数

※具体的な数値目標については、政府全体の目標の検討状況を踏まえ、引き続き検討。

(概要) 国立公園満喫プロジェクトの2026年以降の取組方針

④アウトプット指標

アウトプット指標（例）

項目		活動指標
具体的な アクション	① <u>国立公園ならではの魅力的な滞在体験の提供</u>	廃屋撤去した拠点数
		電線地中化など景観を阻害する施設の改善を行った地区数
		眺望確保・景観向上を目的に樹木の伐採等を行った地区数
		上質なホテル・旅館の数
		トイレの洋式化など利用環境の改善を行った山小屋数（補助事業者数）
	② <u>日本の国立公園のブランド力強化と国内外へのプロモーションの強化</u>	デジタル展示を導入した直轄整備事業数
		環境省ウェブサイト（国立公園に、行ってみよう！）PV数
		スタンプラリーダウンロード数
		インタープリテーション計画の策定数
		③ <u>国立公園の保護と利用の好循環の実現による地域への貢献</u>
公共有料駐車場のEV/FCV利用台数（自然公園財団管理駐車場）		
推進の枠組み	利用拠点計画の策定数	
	利用拠点整備改善計画の認定数（協議会数）	
	新たにカフェ、ツアーデスク、ショップ等の民間事業者を導入した直轄施設数	
	ビジョン及び管理運営方針（保護と利用の方針）が記載された公園計画書数	
	管理運営行動計画（ステップアッププログラム含む）が記載された管理運営計画数	
	環境省現地職員数（常勤・非常勤）（現地レンジャー数）	
	公園管理団体数	
	自然体験活動促進計画の認定数（協議会数）	

※具体的な内容については、目標値や各地域の取組状況等を踏まえながら引き続き検討